

共に関わり合いながら主体的に学ぶ児童

児童の適応感の向上

アセスによる児童の適応感
・学習的適応
・人間関係に関わる適応感

算数科の目標の達成

児童の学力面の変容(CRT)
学習感想

石巻市の取組

「協働的な学習を取り入れた授業改善」

算数科における協働的な学び

よりよい
人間関係づくり

協力して学ぶ喜び
もっと学びたいという思い

協働的な学びを
取り入れた授業づくり

学びの質の向上

考えを交流し、協力
して課題を解決

連携

連携

算数科 授業実践モデルの作成と活用

友達と関わりながら学ぶ協働的な
学びを通して、学習的適応を高
め、学習面の課題を克服したい。

日々の授業に協働的な学びを
取り入れる際に活用できる資料
が欲しい。

本校の児童の実態

各学年、学級全体の適応感良好だ
が、学習的適応が低い児童に算数の
課題が見られる傾向がある。

本校の教員の実態

市外からの異動や経験年数の少な
さから協働的な学びを日々の実践に取り
入れることが難しい。

SEL

自他の感情の理解から
社会性を育てる学習

協同学習

協力して学習課題を
解決する授業づくり

ピア・サポート

仲間を支援、思いやり行
動を増やす場の工夫

PBIS

望ましい行動を増や
す環境づくり

マルチレベルアプローチ: MLA(包括的生徒指導)

全国学力・学習状況調査の結果によると
算数のA問題で全国・県平均を大きく下
回っており、学習内容の基礎・基本が身に
付いていない。

石巻市の取組
石巻市の児童の実態・願い

学習面の課題を改善するために、学力
の基礎となる学習意欲を高め、学ぶ
喜びや学びに対する主体性を高めて
いきたい。

学校教育目標の具現化

だれもが行きたくなる学校づくり

一人一人の児童の
心身の健やかな成長

学びの質の高まり
学力向上

良好な人間関係の構築

適応感の向上

自己肯定感・自己
有用感の高まり

三次支援 教師や専門家等がチーム
となって集中的に支援する

二次支援 友達同士で支え合う力を育てる
(思いやり・援助要請)

一次支援 自分でできる・自分で
乗り切れる力を育てる

PBIS

生活習慣の整備等、
子供の望ましい行動
を増やすことを通して
問題行動を減らす

協同学習

ペアや学習班の活動にお
ける感情、役割、思考の交
流を通して良好な人間関
係を築き、学習意欲を向
上させる学習方法

ピア・サポート

学級内にとどまらず
学年を問わず、仲間
思いやり、支える
実践活動

SEL

自己の捉え方と他者
との関わり方を基礎とし
た社会性(対人関係)に
関するスキル、態度、
価値観を身に付け
る学習

マルチレベルアプローチ(MLA)

アセスメント

収集した情報から理論や知識を基に
ニーズを解釈し、支援策を策定

児童生徒の実態把握

アセス(ASSESS):児童・学級の人間関係や学習に対する適応感の把握
行動観察、各種アンケート、学力テスト、家庭環境に関する情報等

ソーシャルボンド理論・欲求理論・行動理論・愛着理論(内的ワーキング理論)等

学級活動(2) や学習への適応と自己の成長及び健康安全	
りよい人間関係の形成	ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成
SEL プログラム	
協同: 協同学習との関連 ※協同学習 重点化配列	
① あいさつ「おはようございます」 協同学習との関連	○安全な通学(4月)SEL:F2
② 意思伝達「はいといえ」 協同学習との関連	
③ 関係開始「入れて!」 協同学習との関連	
④ 協力関係「手つだってあげよう」 協同学習との関連	○地域にそなえて(6月)
⑤ あったか言葉をつかおう 協同学習との関連	○体をきれいに(7月)SEL:F3との関連
⑥ 友達っていいなあ。 協同学習との関連	
の実態に応じてSEL・ピアサポートプログラ選択	

〇〇学校 〇年 〇組 「行動チャート」

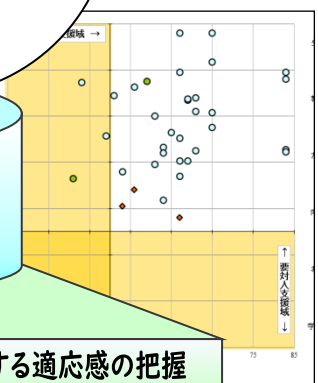
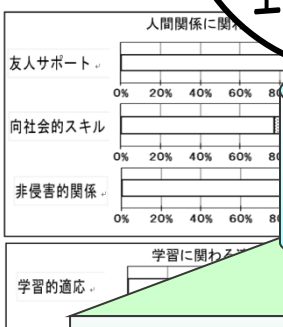
やさしく かしく たくましく

山小レンジャー
グッジョブカード

〇〇 〇〇さんへ

算数の時間に〇〇さんの考えがとても分かりやすかったです。ていねいに教えてくれて、安心できました。ありがとうございました。次の算数が楽しみです。

月 日 〇〇 〇〇



補助資料3 算数科 協働的な学び 実践モデル 準備編

算数科 協働的な学び 実践モデル 準備編

Step1 児童の実態を把握しましょう
アセスやレディネステスト等、様々な情報をもとに児童の適応感や学力、人間関係等を把握します。児童の実態を客観的・具体的に把握することで、児童に合った協働的な学びをつくることができます。

Step2 構成的に学習班を編成しましょう
児童の実態を踏まえ、構成的に学習班を編成します。構成的に学習班を編成することで協働的な学びの効果が高まります。学習班の人数は4名が基本です。(1・2学年は基本的に隣同士(ペア)で協働的な学びを行います。)

Step3 単元全体の計画を考えましょう
①単元の目標・単元計画をしっかりと確認しましょう。
②単元全体を見通し、どの場面にどのような協働的な学習を取り入れると効果的か考えます。
※指導案参照

Step4 本時の学習を考えてみましょう
本時の目標はどの観点に重点が置かれているでしょうか?本時の目標を達成するために適した協働的な学びを考えてみましょう。

Step5

学校適応感尺度(アセス)

アセス (ASSESS)

児童の適応感を把握するためのアンケート

児童一人一人の適応感だけでなく、学級全体の適応感の把握もできる。

アセスを活用することで児童や学級の適応感を知ることができます。

協働的な学びを毎回取り入れなければならないのではなく、児童の実態や単元を見通して計画的に取り入れていきます。

『絆づくり』プログラム

宮城県総合教育センターHP平成27年度専門研究成果一覧にある「絆づくりプログラム」の「絆アンケート」も活用できます。

Step5	算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解
本時の観点に沿って大まかな学習の流れを考えましょう。	数学的な事象に関心をもつとともに、算数的活動の楽しさや数学的な処理のよさに気づき、進んで生活に活用しようとする。	日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち、筋道を立てて考え表現したり、そのことから考えを深めたりするなど、数学的な考え方の基礎を身に付けている。	数量や図形についての数学的な表現や処理に関わる技能を身に付けている。	数量や図形についての豊かな感覚をもち、それらの意味や性質などについて理解している。
観点到応じた学習課題の例	みんなで〇〇のよさを見つめよう。 みんなで生活の中の〇〇をさがしてみよう。	みんなで〇〇について説明できるようになる。 みんなで〇〇の仕方を説明できるようになる。	みんなで〇〇ができるようになる。 みんなで〇〇を求めよう。	みんなで〇〇について知ろう。 みんなで〇〇のしくみ・とくようを知ろう。
どの場面に協働的な学びを取り入れるか。	単元導入時など、既習事項や生活経験を生かしながら、予想したり、見通しを持ったりする場面に協働的な学びを設定する。	単元が進み、多様な考えを児童から引き出し、児童が学習班や学級全体で交流しながら問題を解決する場面に協働的な学びを設定する。	単元の後半など、知識や技能の習熟を図る段階において協働的な学びを設定する。	小単元のまとめの段階など、学習内容への理解を深めるために、短時間で進める協働的な学びを設定する。
振り返りの視点	①今日の学習班での学びでよかったところは? ③次の学習でもっとよくしていきたい学び方は何か?	②今日の自分の学びでよかったところは? ④次の学習で自分の学習をよりよくするためには?	①今日の学習班での学びでよかったところは? ③次の学習でもっとよくしていきたい学び方は何か?	②今日の自分の学びでよかったところは? ④次の学習で自分の学習をよりよくするためには?
学習内容についての振り返り例	もっと知りたいことは何か? 学習したことを生活の中で使うとしたら?	今日の学習のポイントは何か? 〇〇について自分の言葉でまとめよう。	〇〇をするためには、どんなことに気を付ければよいか? 適応問題による振り返り。	〇〇の特徴(性質)を自分の言葉でノートにまとめてみよう。

〈準備編 活用方法〉

① 授業構想の流れ

児童の実態把握から学習班の編成、単元全体を見通した指導計画づくりの流れを示したものである。本研究の協働的な学びは、パターン化された学びの型に沿って行われるものではなく、児童の実態、教科の目標、扱う単元を踏まえた上でモデルを活用しながら授業づくりを行う。

② 児童の実態把握

単元を通して、どのような協働的な学びをデザインするかを考える際、児童の実態把握は欠かせない。本研究では、アセスを通して学級や児童の適応感を把握し、構成的に学習班を編成する。児童の実態を客観的に把握した上で、担任が構成的に学習班を編成し、授業の中でのよりよい人間関係づくりを促していく。

③ 観点到応じた本時の授業イメージ

①②を踏まえた上で、本時の授業づくりを行う。③では、本時の授業の目標に沿って、学習課題、協働的な学びの場面、振り返りについて確認する。

以上、大まかな学習の流れを把握し、授業編で1単位時間の授業づくりを行う。

算数科 協働的な学び 実践モデル 準備編 Step2 構成的な学習班の編成例

アセスの結果を基に児童一人一人の適応感を把握し、支援を要する児童に対するサポートが生まれやすい学習班を編成する。

右に示した座席表は学習班の編成の際に作成したものである。学習班内の児童がどのようなサポートを行うかを想定し、その方向性を矢印で示している。

実際に授業を行う際、この座席表を活用し児童の学びや児童相互の関わり合いを見取る。

教科		単元名	
A児	人間関係に係る適応感	学習的適応感	37
	自己肯定感	学習的適応感	41
	自己肯定感	学習的適応感	46
	自己肯定感	学習的適応感	46
B児	人間関係に係る適応感	学習的適応感	61
	自己肯定感	学習的適応感	65
	自己肯定感	学習的適応感	83
	自己肯定感	学習的適応感	55
C児	人間関係に係る適応感	学習的適応感	46
	自己肯定感	学習的適応感	55
	自己肯定感	学習的適応感	83
	自己肯定感	学習的適応感	61
D児	人間関係に係る適応感	学習的適応感	83
	自己肯定感	学習的適応感	41
	自己肯定感	学習的適応感	83
	自己肯定感	学習的適応感	49
E児	人間関係に係る適応感	学習的適応感	83
	自己肯定感	学習的適応感	83
	自己肯定感	学習的適応感	83
	自己肯定感	学習的適応感	83
F児	人間関係に係る適応感	学習的適応感	32
	自己肯定感	学習的適応感	44
	自己肯定感	学習的適応感	34
	自己肯定感	学習的適応感	55
G児	人間関係に係る適応感	学習的適応感	83
	自己肯定感	学習的適応感	83
	自己肯定感	学習的適応感	83
	自己肯定感	学習的適応感	83
H児	人間関係に係る適応感	学習的適応感	83
	自己肯定感	学習的適応感	83
	自己肯定感	学習的適応感	83
	自己肯定感	学習的適応感	83

※アセスの結果から、児童によるサポートの関係(方向)を大まかに示したものを。